

縦糸と横糸を織りなすような教育

福井県小学校長会長 井上 政夫

今年の夏は、記録的な酷暑に襲われました。雪・雨・風だけでなく、太陽までも、災害の対象と考えなければならない“新しい時代”に入ったのかも知れません。

本日、第70回 福井県小学校長教育研究南越大会を、大会主題「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「豊かな心と確かな学力を身につけ、夢と希望に向けて共に生きる子供の育成」のもと、「女性が輝くモノづくりのまち～子育て・教育環境日本一～」、ここ越前市において、このように盛大に開催することができましたことは、池田町、南越前町の温かいご支援とご協力の賜物と受け止めております。会員を代表いたしまして、深く感謝申し上げます。

また、本日は、公務ご多用の中、福井県教育委員会教育長 東村 健治様、越前市市長 奈良 俊幸様をはじめ、多くのご来賓の方々にご臨席を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、福井しあわせ元気国体・元気大会の開催まで後38日となりました。大会スローガンである「織りなそう 力と技の美しさ」は、本県の教育界にも通じる言葉だと考えています。校長会の会員数191名は、全国で下から8番目です。小さな会です。しかしながら、学力・体力トップクラスを長年にわたって維持しています。これは、校長先生方が、教諭の時代から、縦糸になったり、横糸になったりして、正しく織りなすように教育に尽力してきた成果だと確信しています。国体・障スポ大会を通して、本県のすばらしい子どもたちの姿を、発信していければと願っています。

皆さん、この冊子が何かわかりますか？毎年校長会調査研究委員会がまとめている研究報告書です。「社会の変化に即応した安心・安全な学校づくりと校長の役割」を研究テーマにまとめられています。この中で、自校の研修課題とすべき課題は「変化への対応と特色ある教育課程の編成」であると考えた校長先生方が、67%もおられました。全国値を10ポイントも上回っていました。「小学校英語の教科化」や「特別の教科 道徳の充実」についても全国値を大きく上回っていました。“進取の精神（しんしゅのせいしん）”で、校長先生方が学校経営に取り組んでおられることがわかります。このことが、学力・体力向上にもつながっていると考えます。

課題としては、全国と同じ傾向で、児童と向き合う時間の確保のための改善工夫があげられています。

本日は、このような成果と課題を念頭に置き、8つの分科会で、研究課題に迫る協議をお願いします。時には、愚痴や不安が出るかも知れません。腹を割った忌憚のない意見交換を行っていただきたいと思います。小学校長が一堂に会して、これまでの研究実績を引きつぎながら、このような研修を継続して行うことが、校長としての力量をより一層高めるものと考えます。

本日、提案を準備していただきました各校長先生方、本当に有り難うございます。

最後に、本研究大会に向けて、開催までの計画、準備や大会運営にご尽力いただきました南越地区の校長先生方をはじめ、多くの関係各位に心からお礼を申し上げ、開会の挨拶といたします。